

# 安全データシート

作成日： 2019年05月13日  
最終改訂日：2023年11月30日

## 1. 製品及び会社情報

化学品等の名称： SketchPaint Can B 透明  
製品コード(SDS NO)： 016-1  
供給者の会社名： 株式会社ニシムラ  
住所： 〒132-0035 東京都江戸川区平井1-8-2  
電話番号： 03-3685-5200  
ファックス番号： 03-3637-4105  
電子メールアドレス： office@nsmrp.com  
緊急連絡電話番号： 03-3685-5200  
推奨用途；ホワイトボード用塗料  
使用上の制限：

- ・スケッチペイントは、ポリウレタンアクリレート系の水希釈塗料で『SketchPaint Can A』と混合してから塗布する。更に時間を開けて2回目を塗布する。
- ・下塗りにお好みの色を塗装してオリジナルなホワイトボードをつくることができる。
- ・人体組織や血液などの体内液体と直接接触する医療器具等、乳幼児の口に触れる恐れや飲み込む可能性のあるものには使用しない。

国内製造事業者等の情報(了解を得た上で)；オランダ製の輸入品

## 2. 危険有害性の要約

### 【GHS分類】

物理化学的危険性；引火性液体 区分に該当しない  
健康に関する有害性；全て分類できない。  
環境に対する有害性；全て分類できない。

注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の1.1項に、「分類対象外」、「区分外」、「区分に該当しない」または「分類できない」の記述がある。

【GHSラベル要素】なし

【注意喚起語】なし

【危険有害性情報】なし

【注意書き】なし

GHS 分類に関係しない又はGHS で扱われない他の危険有害性：情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要：情報なし

## 3. 組成及び成分情報

化学物質／混合物の区別：混合物

化学名又は一般名：SketchPaint 透明 B

慣用名又は別名：ウレタン・アクリル樹脂系エマルジョン塗料

一般名	ウレタン・アクリル樹脂系エマルジョン	精製水	ポリプロピレングリコール
濃度又は濃度範囲	30～34%	55～62%	0.1～1%
分子式(分子量)	C B I	H2O (18.02)	(C3H6O)nH2O
化学特性 (示性式又は構造式)	—	—	$\text{H} \left[ \text{O} - \underset{\text{CH}_3}{\text{CH}} - \text{CH}_2 \right]_n \text{OH}$
CAS 登録番号	C B I	7732-18-5	25322-69-4
官報公示整理番号 (化審法)	既存	天然物(対象外)	7-129
(安衛法)	公表	—	公表

GHS分類に寄与する成分 (不純物及び安定化添加物も含む)	なし	なし	なし
トリエチレングリコール モノブチルエーテル	ポリオキシアルキレン (C 2～4, 8)	ポリエーテルポリオール	その他 (数成分)
0.1～1%	0.1～1%	0.1～0.5%	0.1～0.3
C10H22O4 (206)	(C2H4O) <sub>n</sub> C10H22O	C20H38O2 (310.518)	C B I
			—
143-22-6	61827-42-7	169117-72-0	C B I
2-436	7-97	7-758	既存
2-(8)-188	公表	公表	公表
なし	なし	なし	なし

CBI : Confidential Business Information

#### 4. 応急措置

吸入した場合：

- ・ 蒸気/ガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 症状が改善されない場合は、医師に連絡すること。
- ・ 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・ 付着物を布にて素早く拭き取る。
- ・ 汚染された衣類を取り除くこと。
- ・ 大量の水及び石けん又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
- ・ 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。

眼に入った場合：

- ・ 炎症のおそれ。まぶたを開けながら清浄な流水で10分以上洗う
- ・ 直ちに医師の診察を受ける

飲み込んだ場合：

- ・ 謝って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・ 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：

経口摂取；腹痛、下痢、吐き気、嘔吐

応急措置をする者の保護に必要な注意事項：情報なし

医師に対する特別な注意事項：

対症療法的に治療してください。大量に摂取または吸入した場合は、直ちに中毒治療の専門家に連絡してください。

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤：

炭酸ガス消火器、泡消火器、粉末消火器、水噴霧。流失物が水路に流入しないようにすること。

使ってはならない消火剤；

火災が周辺に広がる恐れがあるため、噴流水を消火に用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性：

不燃性であるが、火に巻き込まれると有害物及び有害ガスを放出する可能性がある。

燃焼の際に有毒な炭素酸化物、窒素酸化物、シアン化水素、イソシアネートを生成する。

特有の消火方法：

- 関係者以外は安全な場所に退去させる。
- 霧状水により容器を冷却する。
- 消火水の下水への流入を防ぐ。
- 内容物に、水を直接接触させないこと。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置：

- 防火服/防炎服/耐火服を着用すること。
- 消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。
- この製品の危険性に熟知した者に取り扱わせる。使用後は、装備を洗浄する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置：

- 作業の際には適切な保護具（保護手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
- 室内では換気をしっかり行う。
- 周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

環境に対する注意事

- 排水溝、下水道、水路、河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：

- 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収した後、水と洗剤で漏出区域を十分に洗浄する。
- 付着物・廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止策：

- 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

### 【技術的対策】

- 固形物が含まれているので、使用前にかき混ぜる。
- 2液形の塗料製品である。希釈しないこと。指定のもの以外は混合しないこと。
- 吸入、眼や皮膚への接触を防ぐ為、適切な保護具を使用する。
- 局所排気設備の設置等、通気の良い作業場所で使用する。
- 作業場所、休憩所等には、洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設置する。

### 【安全取扱注意事項】

- 保護手袋を着用すること。保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 取扱中は飲食、喫煙してはならない。
- 使用済みの容器は注意して開けること。

【接触回避】；『10. 安定性及び反応性』を参照。

【衛生対策】；

- 眼、皮膚、衣類につけないこと。
- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。取扱い後はよく手を洗う。
- 休憩、終業時は手を洗う。

保管：

安全な保管条件：

- 保管容器は密閉し、乾燥状態に保つ。
- 製品は、温度35度以下5℃以上に保管する。
- 直射日光を避ける。通風によいところに保管する。
- 使用しない時は保管容器をしっかりと密閉し、湿気の侵入を避ける。
- 子供の手の届かないところに保管する。

安全な容器包装材料：

- 破損や漏れの無い密閉可能な容器・包装を使用する。他の容器に移し替えないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない

許容濃度：設定されていない

設備対策：この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具：

呼吸器の保護具

- ・換気が十分でない場合、又は操作に必要な場合は適切な自給式呼吸保護具を身につける。

個人保護具

- ・作業中は、喫煙しないこと。飲食不可。適切な保護服を使う（厚手のコットンが望ましい）。皮膚及び身体

の保護具

- ・取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないように衣服を付けること。
- ・化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。
- ・汚染した作業着は直ちにすべて脱ぐ。
- ・汚染した作業着は再使用する前に徹底的に洗浄する。作業着は隔離する。
- ・溶媒やシンナーは用いない。

手の保護具

- ・休憩前や作業終了時には手洗いする。
- ・未反応の製品を扱う際には、保護手袋を着用する。化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。推奨材質：ニトリル、ブチルゴム

目の保護具

- ・取り扱いには保護眼鏡（サイドシールの付いたもの）を着用する。
- ・目を洗浄する。（目の洗浄機の用意）

特別な注意事項：なし

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	液体
色	乳白色
臭い	わずかな刺激臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	>93 °C
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	7.5~7.8
動粘性率	0.25 ~0.38 Pas (25°C) (ASTM Method D-562)
溶解度：	水に対する溶解度；混和する。
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	1.04、25°C(水=1)
相対ガス密度 (空気=1)	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
化学的安定性：	推奨保管条件下で 安定である。
危険有害反応可能性：	強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。
避けるべき条件：	高温と 直射日光、熱、炎、火花、静電気、スパーク 35°C以上、5°C以下の保管を避ける。

混触危険物質：	酸化剤、強酸、強塩基
危険有害な分解生成物：	通常の産業利用及び使用条件下では分解の可能性は低い。 燃焼の際は、有害な一酸化炭素、二酸化炭素ガスを発生する。

## 1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）	分類できない	1成分が区分4で、2成分は区分に該当しない、他はデータなし。依って、混合物は分類できないとした。 ポリプロピレングリコール(0.1~1%)；区分に該当しない、経口 ラット LD50=3750mg/kg 区分5とした。(国連 GHS 分類)、(ポリプロピレングリコール(MW:2025)として) rat LD50=9760 mg/kg、(ポリプロピレングリコール(MW:425)として) rat LD50=2910 mg/kg トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%)；区分に該当しない、List 1の情報源 (SIDS (Access on July. 2008), DFGOT (vol.9 2007)) から得られたラットLD50値 (5300 mg/kg, 6660 mg/kg, 5170 mg/kg) に基づき「区分外」とした。 ポリオキシアルキレン (C 2~4, 8) (0.1~1%)；区分4、LD50>300 - 2,000 mg/kg (BASF-Test) Species: rat CLP criteria
急性毒性（経皮）	分類できない	3成分は区分に該当しない、他はデータなし。依って、混合物は分類できないとした。 ポリプロピレングリコール(0.1~1%)；区分に該当しない、(ポリプロピレングリコール(MW:2025)として) rabbit LD50>2000 ml/g、(ポリプロピレングリコール(MW:425)として) rabbit LD50>20 ml/kg トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%)；区分に該当しない、ウサギLD50 = 3540 mg/kg (SIDS (Access on July. 2008)) に基づき JIS 分類基準の区分外 (国連分類基準の区分5) とした。 ポリオキシアルキレン (C 2~4, 8) (0.1~1%)；区分に該当しない、LD50>5,000 mg/kg (BASF-Test) ラット CLP criteria
急性毒性（吸入：気体）	分類できない (分類対象外)	GHSの定義における固体または液体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない	データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない	1成分は区分に該当しない、他はデータなし。依って、混合物は分類できないとした。 トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%)；区分に該当しない、ラット LCLo > 200mg/L/1H = 50 mg/L/4H (SIDS (Access on July. 2008)) より、「区分外」とした。
皮膚腐食性/刺激性	分類できない	1成分は区分に該当しない、他成分は「データ不足のため分類できない」またはデータなし。依って、混合物は分類できないとした。 トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%)；区分に該当しない、ウサギを用いた 24 時間適用による複数の皮膚刺激性試験で、刺激性なし (not irritating)、軽度の刺激性または中等度の刺激性 (moderately irritating) と結果に差が見られた (SIDS (Access on July. 2008))。しかし、中等度の刺激性とされた試験では毛細血管の充血が顕著であったが、刺激性の程度はグレード3 (スコアの計算が合計8点ではなく10点法でのグレード3は強い毛細血管の鬱滞を標記していると考えられる) であったことから、紅斑と浮腫の所見はなかったものと推察された。また、24時間の適用のために刺激が強く出る可能性がある。刺激性なしの試験結果と考え合わせ「区分外」とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない	2成分は区分1、1成分は区分2A、他成分はデータなし。混合物は、区分1、区分2とも閾値以下になるので、分類できないとした。 トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%)；区分2A、ウサギ眼に適用後全観察時点で全動物に結膜の発赤および浮腫が認められ、総スコアが21(最大110)であった (SIDS (Access on July. 2008))。また、試験物質の濃度を変えて刺激性を評価した別の試験では強い刺激性 (highly irritating) を示し、スコアは5 (最大10) に達した (SIDS (Access on July. 2008))。これらの結果に基づき区分2Aとした。 ポリオキシアルキレン (C 2~4, 8) (0.1~1%)；区分1；目に重大な損傷を与えるおそれがある。(OECDガイドライン405)、CLP criteria ポリエーテルポリオール(0.1~0.5%)；区分1；眼に対する重篤な損傷の危険性ウサギ
呼吸器感作性	分類できない	データ不足のため分類できない。

皮膚感作性	分類できない	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	分類できない	データ不足のため分類できない。 トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%) ; 分類できない、in vitro 変異原性試験 (Ames Test) の結果は陰性 (SIDS (Access on July. 2008) , DFGOT vol.9) であるが、in vivo における試験データがないので「分類できない」とした。 ポリオキシアルキレン (C 2~4, 8) (0.1~1%) ; 構造から、変異原性の疑いはない。
発がん性	分類できない	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	分類できない	データ不足のため分類できない。 トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%) ; 分類できない、ラットの器官形成期の経口ばく露により、仔の発生に影響は認められなかった (SIDS (Access on July. 2008)) が、親動物の性機能および生殖能に及ぼす影響に関してはデータがなく分類できない。 ポリオキシアルキレン (C 2~4, 8) (0.1~1%) ; 生殖毒性評価 : 成分から生殖毒性は疑われない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない	データ不足のため分類できない。 トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%) ; 区分に該当しない、経口、経皮および吸入 (ミスト) のいずれにおいても、区分2のガイダンス値上限以上の用量 (経口 3200mg/kg、経皮 2000mg/kg、吸入 (ミスト) 200mg/L) を投与しても影響が見られていない (SIDS (Access on July. 2008) ) ことから、NITEにより区分に該当しないとした。政府による分類では「区分外 (経口、経皮、吸入)」という条件付きである。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない	データ不足のため分類できない。 トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%) ; 分類できない、ウサギに21日間経皮投与した試験が本物質の反復ばく露試験として唯一の試験であり、試験物質による影響は認められていない (SIDS (Access on July. 2008))。しかしながら、ウサギの経皮投与による1用量 (1000 mg/kg/day) のみの試験では、全身毒性の評価には不十分であり分類できない。 ポリオキシアルキレン (C 2~4, 8) (0.1~1%) ; 反復暴露後の標的臓器に対する毒性は示されていない。
誤えん有害性	分類できない	データ不足のため分類できない。

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性短期 (急性)	データ不足のため分類できない。 トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%) ; 区分に該当しない、藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) の72時間EC50が>920 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50及び魚類 (メダカ) の96時間LC50が>100 mg/L (環境省生態影響試験, 1998) から区分外とした。
水生環境有害性長期 (慢性)	データ不足のため分類できない。 トリエチレングリコールモノブチルエーテル(0.1~1%) ; 区分に該当しない、難水溶性でなく (水溶解度 : 1,000,000 mg/L (SRC, 2005))、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	各物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

## 1 3. 廃棄上の注意 ; 環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報 :

### 残余廃棄物 :

- 1) 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
- 2) 余剰製品は、高温焼却により有害燃焼生成物の発生を防止できる認可施設で焼却すること。
- 3) 容器、機械装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

### 汚染容器及び包装 :

- 1) 空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。
- 2) 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

#### 1 4. 輸送上の注意

##### 国際規制：

- ・ 国連番号：－
- ・ 品 名：－
- ・ 国連分類：－
- ・ 容器等級：－
- ・ 海洋汚染物質(該当・非該当)：非該当
- ・ MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質；  
有害液体物質(Z類)；ポリプロピレングリコール(0.1～1%)
- ・ 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策；情報なし

##### 国内規制がある場合の規制情報

- ・ 容器に漏れ、破損の無いことを確かめ、転倒、落下、破損が発生しないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- ・ 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れの無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

#### 1 5. 適用法令

- ・ 消防法：危険物 第四類 第3石油類 危険等級Ⅲ（水溶性液体）
- ・ 化学物質排出把握管理促進法；非該当

##### 1, 6-ジイソシアナトヘキサンの適用法令

- ・ 労働安全衛生法  
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9  
1, 6-ジイソシアナトヘキサン(0.1～0.4%)  
リスクアセスメントを実施すべき危険有害物；  
1, 6-ジイソシアナトヘキサン(0.1～0.4%)
- ・ 化審法；優先評価化学物質
- ・ 労働基準法；疾病化学物質、感作性物質
- ・ 化学物質排出把握管理促進法；第一種指定化学物質 管理番号391 <1%で非該当
- ・ 毒物及び劇物取締法 劇物 包装等級2（ヘキサメチレンジイソシアナート及びこれを含有する製剤）⇒1, 6-ジイソシアナトヘキサン重合物の不純物であり劇物には該当しない。

##### 2, 2, 4-トリメチルーペンタン-1, 3-ジイル=ジイソブチラートの適用法令

- ・ 海洋汚染防止法 有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1）

#### 1 6. その他

##### 参考文献

- 1) IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC), website:
- 2) HSDB-Hazardous-Substances-Data-Bank
- 3) IARC - International Agency for Research on Cancer, website: <http://www.iarc.fr/>
- 4) eChemPortal-The Global Portal to Information on Chemical Substances by OECD, website:
- 5) CAMEO Chemicals, website: <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 6) ChemIDplus, website: <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 7) ERG - Emergency Response Guidebook by U.S. Department of Transportation, website:
- 8) Germany-GESTIS-database-on-hazard-substance
- 9) ECHA - European Chemicals Agency
- 10) IATA 危険物規則書
- 11) RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
- 12) 国際化学物質安全性カード (ICSC) 日本語版 化学工業日報社(1992)
- 13) 危険物防災救急要覧-化学物質の性状と取扱い-
- 14) JIS Z-7252 : 2019、JIS Z-7253 : 2019
- 15) Sigma-Aldrich SDS. 及び試薬メーカーのSDS

- 16) 2022 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)
- 17) 化学物質総合情報提供システム(CHRIP) (NITE)
- 18) 事業者向け GHS 分類ガイダンス(令和元年, 経済産業省)
- 19) 危険物船舶運送及び貯蔵規則 (21 訂版) 国土交通省海事局検査測度課 監修
- 20) 厚生労働省労働基準局長 ; 基発 0112 第 6 号「化学防護手袋の選択、使用等について」
- 21) 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター GHS モデル SDS 情報

#### 責任の限定について

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成いたしておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする等の場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

---